

造形的な見方・考え方を働かせて 表現を深めることのできる生徒の育成

— 教科の目標と内容の系統性に着目した題材構想と個に応じた支援の工夫 —

義務教育研究係
長期研修員 亀井 章央

《研究の概要》

本研究は、美術科における造形的な見方・考え方を働かせて表現を深めることのできる生徒の育成を目指したものである。

学習指導において、生徒の表現方法や材料の選択の自由度が高くなると、生徒の表現が多様になる一方で、教師の個に応じた支援が難しくなる場面がある。

そこで本研究では、生徒一人一人が主題をもち工夫しながら表現を深めていくために、教科の目標と内容の系統性に着目した題材構想と個に応じた支援の工夫を行う。

具体的には、教科の目標や内容を図画工作科での学びも含めて系統的に捉え、造形的な視点を明らかにして題材構想をしていく。また、生徒が造形的な視点を自覚できるように、個に応じた支援の具体化を図る。

このように、系統性を意識して題材構想をし、授業の中で造形的な視点を基に個に応じた支援を行うことで、教師の支援はより具体的なものになる。そして、生徒一人一人の主題に迫る支援を行うことができ、生徒が表現をより深めながら学習していくことができる。

キーワード 【美術 系統性 造形的な見方・考え方 自由進度学習 個に応じた支援】

群馬県総合教育センター
分類記号：G 0 5 – 0 6 令和6年度 2 8 5 集

本報告書に記載されている商品又はサービスなどの名称は、各社の商標又は登録商標です。

＜各社の商標又は登録商標＞

ロイロノート・スクールは、株式会社 LoiLo の商標です。

なお、本文中にはTM マーク、[®] マークは明記していません。

I 中学校美術科における問題の所在

第4期群馬県教育振興基本計画では、「ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける『自律した学習者』の育成」が最上位目標として掲げられ、目指す姿として「自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す」¹⁾ 子供の姿が示された。そのような子供の姿を促すために、群馬県総合教育センターでは、子供を主語にした学びの実現を目指して、子供が選択・決定する場面の多い学習形態である「自由進度学習」を手掛かりとして研究を進めることとなった。

令和6年度学校教育の指針では、特に図画工作・美術で現れてほしい子供の姿を「自分なりのよさや美しさを見付けたり表したりしている」とし、指導の重点として「児童生徒が活動や表現方法、材料を選択できたり、互いの活動や作品を自然と見合えたりする環境を設定する」²⁾ ことが示された。

美術科は、生徒が自分の表したいことに向かって試行錯誤を繰り返して表現するという教科特性がある。そのような教科特性がある美術科は、本来、生徒が選択・決定する場面を大切にし、生徒が自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出せるような姿を目指してきたと言える。

しかし、美術科の授業において、生徒が選択・決定する場面を多くしていくと、生徒の学びの姿が多様になる反面、教師の支援が困難になる場面がある。例えば、教師は生徒の主体性を重んじるあまり、生徒の活動を見守ることに終始したり、声掛けが「いいね」「素敵だね」「素晴らしいね」などの共感や称賛にとどまってしまったりして、放任のようになってしまふこともある。逆に、生徒の学びの見取りやすさを重んじるあまり、知識や表現方法を教え込み過ぎることもある。生徒一人一人の表現を大切にしながら、教師は個に応じた支援を適切に行う必要があるが、その支援を具体化することが難しい。

そこで、生徒の学びに対する教師の支援を適切なものにするための視点をもつ必要がある。そのような支援を具体化するためには、教科の目標と内容の系統性に着目した題材構想をしていく必要がある。また、生徒が自分の表したいことに向かって試行錯誤を繰り返していく際に、造形的な見方・考え方を働かせられるような支援を構造的に捉え、具体化していく必要がある。

そのために、中学校美術科における具体的な生徒の学びの姿を基に、系統性を意識した個に応じた支援の視点を明らかにすることで、造形的な見方・考え方を働かせて表現を深めることのできる生徒の育成につながると言え、本研究主題を設定した。

II 研究の目的

中学校美術科において、目標と内容の系統性に着目した題材構想と個に応じた支援の工夫を通して、造形的な見方・考え方を働かせて表現を深めることのできる生徒の育成を目指す。

III 方法

教師が系統性に着目し個に応じた適切な支援をするための視点を明らかにし、実践を通して造形的な見方・考え方を働かせて表現を深めることについての有効性を考察する。

IV 研究の内容

1 文言の定義

(1) 自由進度学習

本研究において、子供が選択・決定する場面の多い学習形態とする。

(2) 主体的な学びの姿

本研究において、自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す姿を目指す姿とし、目指す姿につながる姿を大切にしたい姿とする。

(3) 表現を深める

本研究における造形的な見方・考え方を働かせ表現を深める姿とは、生徒が自分の表したいことに向かって試行錯誤を繰り返して表現を行っている姿とする。

2 美術科の教科特性と自由進度学習の親和性について

美術科は、生徒が自分の表したいことに向かって自ら表現方法や材料を選択・決定し（図1）、試行錯誤を繰り返して表すこと（図2）が求められており、子供が選択・決定する場面の多い学習形態である自由進度学習と親和性が高いと言える。



図1 表現方法による表現の違いを意図的に組み合わせて絵に表すために、墨の濃淡や筆使いを選択・決定している姿

図2 「床に当たる光」を表すために、色の濃淡を試行錯誤して表している姿

3 研究上の手立て

造形的な見方・考え方を働かせ表現を深める姿を促すことができるよう、個に応じた支援をするための視点を以下のように設定した。

手立て1

系統性を意識できるよう、教科の目標と内容を整理する。

手立て2

造形的な見方・考え方を働かせている生徒の姿を具体的に想定し、造形的な視点を明確にして題材構想する。

手立て3

本時における、個に応じた支援の具体化をする。

- i) 共感・称賛をする（生徒の表現を受け止める）
- ii) 主題を問う（生徒の表現の一番大切にしたいものを聞く）
- iii) 表現意図を問う（表現方法をより意図的に生かせるよう生徒に意識化させる）
- iv) 造形的な視点を意識化させる（表現を深めていけるよう促す）

手立て1について、中学校における学びを系統的に捉えるために、小学校の学習についても整理する。まず、「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説美術編」及び「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説図画工作編」から教科の目標と内容を整理する。次に、小学校の学習内容と中学校での学習内容を確認する。そして、小学校の学習につながる幼稚教育、中学校の学習がつながる高校での学習内容についても確認をする。このことによって、学習内容のつながりを意識することができ、教師は高い専門性をもち発達の段階に合わせた造形的な見方・考え方を働かせるための視点をもつことができる（次頁図3）。また、この視点をもつことにより、発達段階に合わせた題材設定をすることや既習内容や次学年への学習内容のつながりを意識してより深い学びにつながる題材を設定することができる。そして、授業中の支援では、生徒の造形的な視点が拙くても生徒の表したいことを大切にしながら段階的な支援をすることができる。

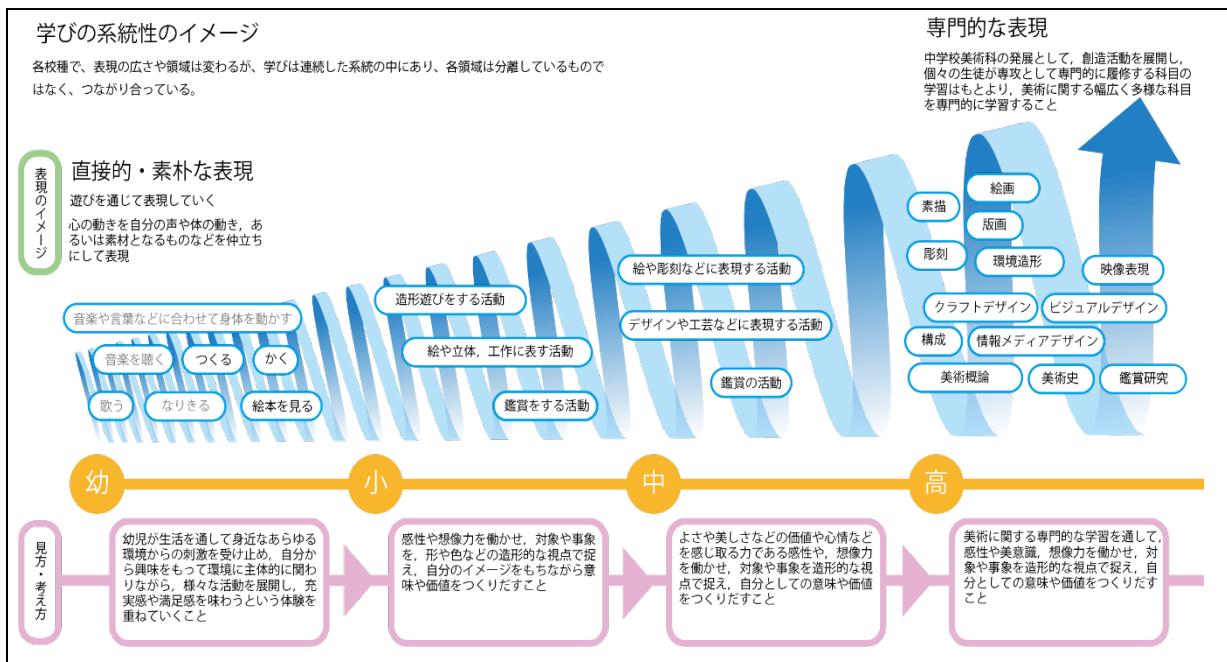
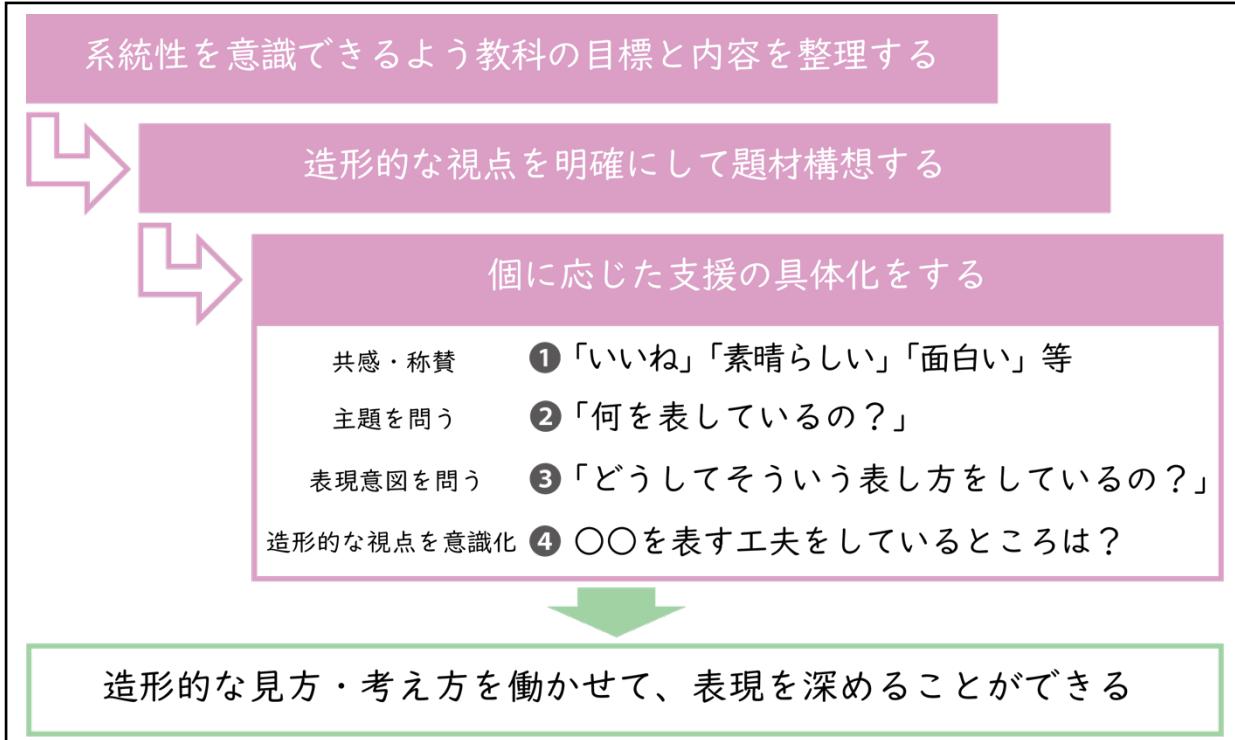


図3 学びの系統性のイメージ

手立て2について、本題材で扱うべき造形的な視点を明確にし、造形的な見方・考え方を働かせている生徒の姿を具体的に想定する。そのために、まず題材における中心的に扱いたい造形的な視点を系統性を意識して設定する。次に、本題材における造形的な見方・考え方を働かせている生徒の具体的な姿を設定する。このことにより、系統性を意識した題材を構想することができる。

手立て3について、本時における個に応じた支援を構造化する。まず、生徒の活動に対し、共感・賞賛を行う。次に、生徒に「何を表そうとしているのか」言語化を促すことを通して主題を問う。そして、「どうしてそのような表し方をしているか」生徒の表現意図を問う。最後に、「主題を表すために工夫をしているところ」を問うことで造形的な視点の意識化を促す。このように支援を構造化することにより、教師の個に応じた支援が具体化され、造形的な見方・考え方を働かせながら表現を深めることでできる生徒を育成できると考えた。

4 研究構想図



V 授業実践

1 授業実践①

(1) 題材の概要

中学校第1学年の4学級を対象に、自分らしさを表すマークを自分なりに表現し缶バッジを制作する「自分缶バッジをつくろう」（A表現（1）ア）を全4時間で行なった。この題材では、自分の特徴や今までの経験、趣味などから感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、想像したことなどを基に主題を生み出し、全体と部分との関係などを考え、創造的な構成を工夫し、材料や用具の特性を生かし意図に応じて表現方法を工夫して表すことをねらいとした。この実践を通して、以下のことが明らかとなった。

(2) 題材の考察

- 教師が個に応じた支援をすることで、生徒が表現方法や材料を選択する様子（図4）や生徒が試行錯誤を繰り返す様子（図5）が多く見られた。
- 教科の目標と内容を整理することで、授業で造形的な視点が明確になったが、生徒の表現を深めるための個に応じた支援にはつながらなかった。その理由として、教師の支援が手立て3における個に応じた支援の「i) 共感・称賛をする ii) 主題を問う iii) 表現意図を問う」に留まり、表現を深めるための支援まで実現できなかつたことが原因の一つと考えた。

2 授業実践②

(1) 題材の概要

中学校第2学年の4学級を対象に、自分なりの違和感をつくり出し写真で表す「違和感をつくり出す」（A表現（1）ア）を全7時間で行なった。この題材では、対象や事象を深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基に自分なりの違和感を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組合せ、環境との関わりなどを考え、創造的な構成を工夫して表すことをねらいとした。この実践を通して、以下のことが明らかとなった。

(2) 題材の考察

- 教師の声掛けの中に、造形的な見方・考え方を働かせて表現を深められるようにするためのキーワードが増え、支援の変容が見られた。主に、手立て3における「iv) 造形的な見方・考え方を意識化させる」支援が多くなった。
- 教師の支援によって造形的な視点を意識して表現を工夫する生徒が多く見られた（図6）（図7）。
- 教師の支援が誘導的になり、生徒の表現を教師が決定してしまうような場面もあった。どのタイミングで支援をすればよいか生徒の学習状況をしっかりと見取っていかないといけないと考えた。



図4 自分の特徴を色で表すために用具を選択し、その性質がもたらす効果を考え表現する姿



図5 自分の表したい色に向けて、にじみやグラデーションによる色づくりを試行錯誤している姿

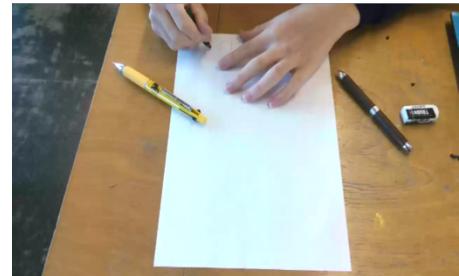


図6 造形的な視点（材料の組み合わせ）を意識して表現を深めた作品

※書いているけれど線が消える鉛筆をつくり、日常の机の上を再現している作品



図7 造形的な視点（環境との関わり）を意識して表現を深めた作品

※日付に違和感のあるカレンダーをつくり、教室の黒板に貼ることで表現している作品

3 授業実践③

(1) 授業の概要

中学校第3学年の4学級を対象に、自分の感情やものの考え方、価値観、自分と社会の関わりなどを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基に自分を表現する学習活動を通して、単純化や省略、強調、材料の組合せ、環境との関わりなどを考え、創造的な構成を工夫して表現する題材「自分を表す」(A表現(1)ア)を全11時間で設定した。

(2) 教科の目標と内容を整理

本題材は、中学校第3学年A表現(1)絵や彫刻などで表現する題材なので、まず、小学校で既習した絵や立体、工作に表す学習内容を確認した。次に、中学校1年次、2年次のA表現(1)の学習を確認し、高校の学習へのつながりについて学習指導要領を確認した。そして、中学校最後のA表現(1)の学習なので、表現の様式については生徒が選択・決定できるようにした。

A表現(1)絵や立体、工作に表す／絵や彫刻などに表現する活動における教科の内容の系統表

小学校1・2年	好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたり	どのように表すか考える
小学校3・4年	表したいことや用途を考え、形や色、材料などを生かしながら	
小学校5・6年	形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途など	主題を表す
中学校1年	全体と部分との関係など	主題を生み出し
中学校2・3年	単純化や省略、強調、材料の組合せなど	創造的な構成を工夫
高等学校	表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成など (形体、色彩、構成などの造形の要素の働きを総合的に考え、単純化や強調、構図、配色・混色やマチエールなど)	主題を生成 創造的な表現の構想

(3) 造形的な見方・考え方を働かせている生徒の姿を具体的に想定し、題材構想をする

本題材における中心的に扱いたい造形的な視点を単純化や省略、強調、材料の組み合わせ、環境との関わりなどと設定した(図8)。

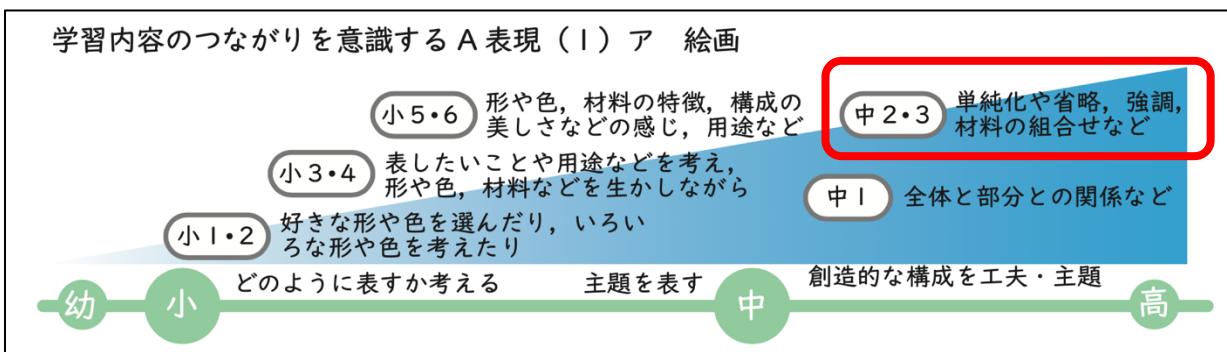


図8 系統表を基に学習内容のつながりを図にしたもの

また、本題材は既習事項を生かして、表現方法や材料の選択を生徒に任せる題材のため、造形的な視点を基に見方・考え方を働かせている生徒の具体的な姿を表現方法ごとに以下のように想定した。

① 想定した姿

表現方法	視点	一例
絵画表現 写真・動画	・単純化や省略、強調 ・材料の組み合わせ ・環境との関わり	【単純化や省略、強調の例】 絵の具で表現する際に主題に合わせて、省略して表すことを考え、構成を工夫して構想を練っている。 【材料の組み合わせの例】 絵の具を扱う際に主題に合わせて、指と絵の具を組み合わせてできる表現について考え、構成を工夫して構想を練っている。 【環境との関わりの例】 写真や動画を撮影する際に主題に合わせて、その場の環境を考え、構成を工夫して構想を練っている。
彫刻・立体	・単純化や省略、強調	【単純化や省略、強調の例】

インスチラ ション	<ul style="list-style-type: none"> ・材料の組み合わせ ・環境との関わり 	<p>粘土で立像をつくる際に、主題に合わせて動きを強調することを考え、構成を工夫し構想を練っている。</p> <p>【材料の組み合わせの例】 立体作品をつくる際に、主題に合わせて紙と工作用紙を組み合わせる構成を工夫して構想を練っている。</p> <p>【環境との関わりの例】 主題に合わせて作品をどのような場所で表すか、それをどのように鑑賞してもらうかを考えて構成を工夫して構想を練っている。</p>
--------------	---	--

以上のような点を踏まえて、次のように題材を構想した。

(2) 題材構想 ※下線部は、本題材において中心的に扱いたい造形的な視点

対象	研究協力校 中学校第3学年 140名									
実施期間	令和6年9月2日（月）～12月6日（金）									
題材名	自分を表す 全11時間									
題材の目標	<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、主題を全体のイメージで捉えることを理解する。（〔共通事項〕） ・材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表す。（「A表現」（2）） <p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の感情やものの考え方、価値観、自分と社会の関わりなどを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、<u>単純化や省略、強調、材料の組み合わせ、環境との関わりなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想</u>を練る。（「A表現」（1）） ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を深める。（「B鑑賞」（1）） <p>【学びに向かう人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に主題を基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとする。 									
授業の概要	<table border="1"> <tr> <td>第1時</td> <td>【出会う】 多様な表現方法の作品群を鑑賞し、作品に込められた思いや表現方法の特徴を考えたり、小学校からの既習内容を振り返ったりして、自分を表現するイメージをもつ。</td> </tr> <tr> <td>第2時</td> <td>【試す・広げる】 自分を表すために、調査と資料集めをしたり、既習事項で扱った材料や用具等を用いて表現を試したりする。</td> </tr> <tr> <td>第3～10時</td> <td>【表す】 既習の表現方法や、材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して、自分を表す。</td> </tr> <tr> <td>第11時</td> <td>【振り返る】 自分を表現するための工夫についてまとめ、互いの活動を鑑賞する。</td> </tr> </table>	第1時	【出会う】 多様な表現方法の作品群を鑑賞し、作品に込められた思いや表現方法の特徴を考えたり、小学校からの既習内容を振り返ったりして、自分を表現するイメージをもつ。	第2時	【試す・広げる】 自分を表すために、調査と資料集めをしたり、既習事項で扱った材料や用具等を用いて表現を試したりする。	第3～10時	【表す】 既習の表現方法や、材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して、自分を表す。	第11時	【振り返る】 自分を表現するための工夫についてまとめ、互いの活動を鑑賞する。	
第1時	【出会う】 多様な表現方法の作品群を鑑賞し、作品に込められた思いや表現方法の特徴を考えたり、小学校からの既習内容を振り返ったりして、自分を表現するイメージをもつ。									
第2時	【試す・広げる】 自分を表すために、調査と資料集めをしたり、既習事項で扱った材料や用具等を用いて表現を試したりする。									
第3～10時	【表す】 既習の表現方法や、材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求して、自分を表す。									
第11時	【振り返る】 自分を表現するための工夫についてまとめ、互いの活動を鑑賞する。									

(4) 本時における個に応じた支援

(1) 題材における支援の概要

自己という対象を見つめ、自分の表したいことに向かって、自分を表すための表現技法を追求し工夫して自分を表すことをねらいとした題材であり、難易度は非常に高いと考えた。そこで、生徒が主題をつかむまでは時間がかかるものだと捉え支援をした。また、生徒一人一人の表現方法や材料の選択決定が自由であるため、ロイロノートで写真付きの振り返りシート（図9）を毎時間提出させて、生徒の学習状況を把握できるようにし、支援を適切に行えるようにした。

振り返り
制作に取り組んで、気づいたこと、考えたこと、悩んだことを記録しよう
制作物の写真や動画・一番工夫したところをまとめる
（記述）
写真・動画
次回の自分へのメモ
（記述）

図9 生徒に毎時間提出することを促した振り返りシート

② 抽出生徒の学習状況

抽出生徒A（以降A）は第3時まで表したいことが見付からず、試しの活動を続けていた（図10）。仲間と話し合う様子も見られ、表現のきっかけはつかめないものの、どうにか「自分」を表すきっかけを見つけようとしている様子は見取った。

第4時において、Aは指で表すことで自分を表せると考えることができた（図11）。振り返りの「自由を表したい。海を描きたい」という言葉から主題をつかみ始めていることを見取った。

③ 個に応じた支援の実際

そこで、Aが自分の表したい「自由」と「海」に向かって試行錯誤を繰り返して「指で描き」表現することができるよう、次のような支援を行った（図12）。



図10 表したいことが見付からない様子



図11 試しの活動における指で表す姿

抽出生徒Aの姿	T : 教師の個に応じた支援	S : 抽出生徒Aの反応
 	<p>i) 共感・称賛</p> <p>T : いいね。何を表そうとしているの？</p> <p>S : 自由になりたい気持ちを海で表そうとしています。</p> <p>ii) 主題を問う</p> <p>T : どうして指で描いているの？</p> <p>S : 指は自分の体の中で一番自由に動かせる場所で、部活（バレー）でも大切にしていたから</p>	
	<p>iii) 表現意図を問う</p> <p>T : 自由を海で表すときに工夫していることは？</p> <p>S : 未来へ続くイメージで描いた空は穏やかにし、海は今の自分を表していて波を激しくしました。</p> <p>T : 海と空以外は描かないの？</p> <p>S : 海と空以外はあえて描かずに、省くことで自分の素直な気持ちを表そうとしています。</p> <p>iv) 造形的な視点を意識化させる</p>	

図12 第5時の抽出生徒の様子と教師の支援の実際

④ 題材の考察

第5時における「i) 共感・称賛、ii) 主題を問う」では、Aが3時間悩んで見出した表したい気持ちを受け止めたことで、Aが話しやすい状況を作り出すことができた。第5時以降も生徒が教師に対し質問することが多かったことから有効に働いたと考える。また、Aの表現の一番大切にしたいものを聞くために主題を問い合わせたことで、第3時でつかんでいた「自由」という主題を明確化させることができた。

次に、「iii) 表現意図を問う」では、主題に向けてなぜその表現方法を選んだのかを問い合わせたことで、主題を表すためにその表現方法をより意図的に生かせるようAに意識化させる意図があった。Aは、まだ意図的に指で描いている様子があまりなく、自分の表したい主題に向けて表現方法を生かしきれていなかった。しかし、第5時の支援後は、指で表す意味についても考え、指の動きを工夫したり、青の絵の具が乾かないうちに白い絵の具を重ねることで混色をし掠れた表現を意図的につくり出していたことから適切な支援ができたと考える。

そして、「iv) 造形的な視点を意識化させる」では、表現を深めながら活動していくほしいので、造形的な視点を意識化させた。生徒の中には、夢中になって表現に取り組んでいると造形的な視点を意識せず活動してしまうこともある。よって、ここでは本題材において中心的に扱いたい造形的

な視点としていた単純化や省略、強調、材料の組み合わせ、環境との関わりなどを考え、創造的な構成を工夫することに意識が向くよう、主題を表すために工夫していることを問いかけた。このことにより、Aは今の自分を表すために海の波を激しく（強調して）描き、それと対照的に空は穏やかに表そうとしていることにも意識が向く、表したいことに向かって本題材で中心的に扱いたい造形的な見方・考え方を働かせて表現を深めることができた（図13）（図14）。



図 13 抽出生徒Aの完成作品

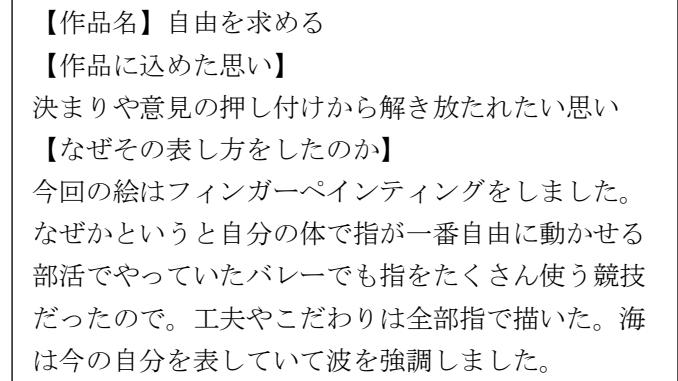


図 14 抽出生徒Aの作品説明

（5）他の生徒の作品一覧



↑優柔不断で染まりやすい自分を周囲の色とその色が心臓と脳で混ざり合うようにすることで自分を表現した絵画作品



↑自分の成長は友達との関わりのおかげと捉え、友達の誕生花を周囲に配置し、半立体で手前にせり出している手を強調することでさらなる変化を求めていた様子を表したミクストメディア作品



↑好きを貫く思いを表すために自分が一番好きな恐竜をお菓子のイメージと組み合わせ砕かれたチョコレートの色をカラフルにすることで、好きなものの輝きを表した絵画作品



↑自分の好きな色で紙を滲ませて、それを短冊状に切り、何重にも重ねて貼り、自分で調べたレーダーチャートが角のない球形だったことから球形の立体で自分を表した作品



↑半立体でつくった花の形を変えたり、気持ちを表した様々な線の先にある花の形を対照的にしたりすることで嬉しい気持ちと不安な気持ちを表現したミクストメディア作品



↑周囲を取り囲む人を色の変化で表し、檻を自分に見立て揺れているように表すことで、挫折や葛藤などの苦難と戦いながら自らの生きる意味や居場所を探す主題を表そうとした絵画作品



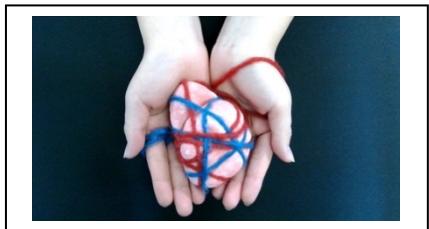
↑自分の思う自分と他者から見た自分とを球の表と裏で表す際に、負の面を意図的に凹凸をつけて強調して表した彫刻作品



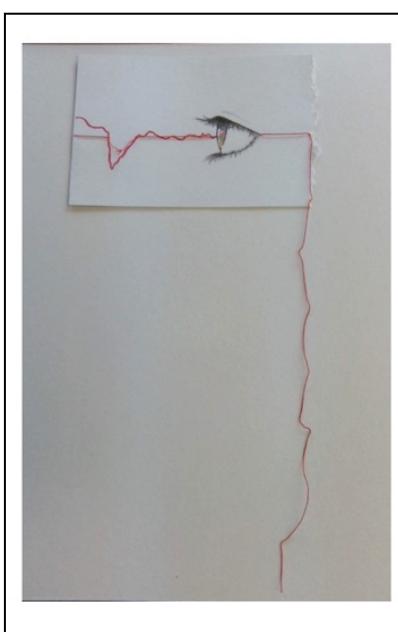
↑ビンの中に糸で植物の根を張り巡らし、表に出ている葉と茎の部分は模造の葉を使い雑草のように表すことで、表面に見える部分より中身はしっかりしている自分を表そうとしたミクストメディア作品



↑頑張りすぎて干からびながら歩き続ける様子を自分の体が溶けているように粘土で表している彫刻作品



↑心が締め付けられている自分を表すために、粘土で作った心臓を糸で縛り、それがより際立つように暗い背景の上で撮影したミクストメディア作品



↑目の先に伸びた線で過去を表し、描いた紙に赤い糸を縫い付けることで気持ちを表した。過去に起きた辛いことを乗り切ったことを表すために糸の途中をあえて切り、切った糸を結び直すことで、前に進む気持ちを表現したミクストメディア作品



→自分の完璧主義なところを表現するために玩具を基にイメージを広げ、箱の中には自分の今の感情がぶつかり合っていることを表現した。自分の内と外のイメージを見えないようにすることで、自分を表そうとしたミクストメディア作品



↑自分の中を覗けるような作品にするために、外側の写実的な目の部分と中身の色をつけた綿の印象を変えることで、自分のふわふわした内面を強調して制作した立体作品。



↑一人で悩んでしまう自分を身体で表現する際に、動画の中の自分が一人だと強調するように画角や陰影を工夫して撮影した動画作品

VII 考察

図画工作科から美術科における教科の目標と内容を整理することで、学習のつながりを意識した指導ができるようになった。教科の特性や目標、学習内容の系統が分かることで、発達の段階を意識して題材を構想する視点を得ることができた。造形的な視点を明確にして題材構想することで、題材の中でどのような支援をするかが明確になり、指導の計画を立てる際の目指す生徒の姿や生徒に対する支援がより具体化された。教師が系統性に着目したことで、生徒一人一人に対する学習状況の見取りと支援が明確になり、生徒が造形的な見方・考え方を働かせて表現を深められることにつながることが分かった。

個に応じた支援を具体化することで、生徒の表現方法や材料の選択が自由になっても、生徒に学びの自覚を促すことができた。生徒によっては、活動に夢中になったり、自分なりの表現を思いつけなかつたりすると造形的な見方・考え方方に立ち戻れることもあった。そういう生徒に表したいことや表現意図を問い合わせ言語化することを促すことで、教師が生徒の主題を把握するだけでなく、生徒も自らの主題や制作意図を明確にし、表現をより深めることができることができた。

VII 成果と課題

1 成果

教師が個に応じた支援をするための視点を明らかにしたことは、造形的な見方・考え方を働かせて表現を深めることに対して、生徒一人一人が主題をもち造形的な視点を基に工夫しながら表現を追求していく姿が多数見られたことから、有効であった。

また、系統性を意識して題材構想をし、教師が造形的な見方・考え方を働かせている生徒の具体的な姿を設定したことは、教師の授業中の生徒に対する造形的な見方・考え方を働かせて表現を深められるようするためのキーワードが増えたことから、有効であった。さらに、既習内容や次学年への学習内容のつながりを意識して題材を設定したことは、生徒の造形的な視点が拙くても生徒の表したいことを大切にしながら段階的で発展的な支援ができたことから、有効であった。

のことから、教科の目標と内容の系統性に着目した題材構想と個に応じた支援の工夫は、造形的な見方・考え方を働かせて表現を深めることのできる生徒の育成につながったと言える。

2 課題

教師がより深く個に応じた適切な支援を行うためには、小学校での学びを具体的に引き継いでいく必要があると考えた。どのような目標と内容で、どのような題材に取り組んだかを子供の具体的な姿で捉えることができるよう、生徒の振り返りを生かしていきたい。そうすることで、教師だけでなく生徒も系統的に学びを捉えることができると考える。

VIII 提言

教師が系統性を意識して題材構想し、授業中の個に応じた支援を具体化することで、生徒は造形的な見方・考え方を働かせて表現を深めていくことができる。

IX 引用文献

- 1) 群馬県・群馬県教育委員会 (2024) 『群馬県教育ビジョン（第4期群馬県教育振興基本計画）』
- 2) 群馬県・群馬県教育委員会 (2024) 『令和6年度学校教育の指針』

X 参考文献

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年3月）解説 図画工作編』
- ・文部科学省 『中学校学習指導要領（平成29年3月）解説 美術編』
- ・国立教育政策研究所・教育課程研究センター
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校図画工作・中学校美術）』
- ・佐伯胖(2023年) 『子どもの遊びを考える「いいこと思いついた！」から見えてくること』(北大路書房)
- ・東良雅人・竹内晋平(2023年) 『「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価完全ガイドブック中学校美術』(明治図書出版)
- ・小林恭代(2025年) 「図画工作科における個に応じた指導の充実」 『初等教育資料』1055巻 1月号 pp. 6-9